

東濃地域医療を守る

連絡会ニュース

第二回連絡会開催

一月二十五日(土)、恵那教育会館で第二回連絡会が開催しました。参加者は多治見市(二人) 土岐市(三人) 瑞浪市(二人) 恵那市(五人) 中津川市(四人)、県社保協(河村)の十七名が参加。県社保協から県内での動きと全国での取り組みの一部を紹介した後、各市から次のような報告がされました。

多治見市

県病院は日常生活が送れない状態でも有無を言わず退院させる。市民病院とは天と地の差
市民が欲しいのは市民病院です。市長が公開質問状を出したところは市民病院存続の声が盛り上がっていたがいまは下火になっている。

土岐市

東濃厚生病院との合併が三年前から土岐市、瑞浪市、岐阜厚生連の間でひそかに話し合われていた。今は、三者の検討会が公開されているが、赤字だから仕方ないとあきらめムード、しかし、医師が三十一人から、二十一人に減り、他の職員も減少している。医療の質の低下を心配する声もある。

東濃厚生病院と統合してつくる新病院を土岐総合病院の跡地に建設するという案は賛成の声が多い

瑞浪市

いままで全て東濃厚生病院に任せていたので、瑞浪市として病院にかんして何かを要求するなどという動きはない。しかし、土岐総合の跡地に東濃厚生病院を移転させる案には、市民から反対の声がでてくる。同じように、今まで東濃厚生病院を利用して来た恵那市の竹並地区、山岡地区、明智地区などの住民からも反対の声がでてくる。

恵那市

二〇一三年国立恵那病院の経営移譲を受け、市立恵那病院となった。二〇一五年には多額借金をして、新病院を建設、二〇一七年には、市民の悲願だった産婦人科を開設するなど努力していたのに再び再編・統合の対象になるなど寝耳に水、市当局は当初、基礎となった診療実績が、ちょうど新病への引越時期とかさなつたため少なかつたにすぎないと樂觀していたが、事実はそのなにかんがうことが判明。市議会は、国に意見書を提出、しかし、市当局はいまだに動きなし。

上矢作病院に関しては、合併の条件として病院は、地域医療の基本施設として更に充実を図ると約束したにもかかわらず、医師不足を理由に、医師三人、病床一五床まで縮小され、一般医療を担う病院としてカウントされていない。当然ながら、再編・統合の対象にはなりえないというのが現状。

中津川市

中津川市民病院は 再編・統合の対象にはなっていないが、空き病床を閉鎖するよう県から指導されている

坂下病院は合併の条件として病院は存続させるという約束だった。しかし、医師不足を理由に縮小をかせねついに一九床の有床診療所にされてしまった。しかも、外来は予約制、入院患者は現在ゼロという惨状地域住民の全員が坂下病院の復活を切望している。

今後の取り組み

- 一、県との懇談、各病院の要望を盛り込んだ要望書の作成
- 二、各自治体及び市議会への要望(二月議会)
- 三、市民へのアンケート活動

